

令和7年度高坂学園生涯大学修了式あいさつ

2026年3月26日 県民文化ホールグリーン

おはようございます。学長の奥田一雄でございます。

修了生のみなさま、本日はまことにおめでとうございます。令和7年度、496名の方々が高知県高坂学園生涯大学を晴れて修了されることとなりました。ここに生涯大学を代表し、心よりお祝いを申し上げます。また、ご臨席を賜りましたご来賓の方々には、平素から生涯大学の活動に深いご理解と温かいご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。そして、本年度修了生にとってのこの佳き日を、ここに参加されます皆さま方とともに、心からお喜び申し上げます。

ところで、高坂学園生涯大学には、A, E, G, I, J, Kという6つの組があります。修了式はこれら6つの組が年に1回一同に会する一大イベントであり、他の組の学生と知り合うことのできる貴重な機会となります。A組はどこにおられますか、手を挙げてください。E組は、G組、I組、J組は、K組は。みなさん、生涯大学の同窓生です。修了生のみなさん、このなかで今回初めて修了生になったという学生はおられますか？手を挙げてみてください。あなた方は一回生ですね。ありがとうございます。それでは次に、今までに2回以上生涯大学を修了した学生はいかほどおられますか？はい、2回生、3回生、4回生以上ですね。ありがとうございます。このように複数回生涯大学を修了した学生はそれだけたくさんの方を学んできたということになりますね。それでは、この1年間、ほとんどすべての授業に出席した方は手を挙げて下さい。皆勤賞です、みなさん、がんばりましたね。さらにまた、この1年のあいだに米寿、さらに100歳を迎えた方もおられます。手を挙げて下さい。みなさん、まことにおつかれさま、おめでとうございます。

さて、みなさんはこの1年の間に生涯大学でさまざまな活動をしてこられました。どのような活動をしてきたのかを少し振り返って思い出してみましょう。

みなさんは月2回教室に集まり、午前と午後の講義を受けてきました。暑い日寒い日雨の日も風の日もあったでしょう。大学に通うのを楽しみにして、その日は各自、服装を整え、おしゃれをして登校しました。それは、クラスメートや友達に会ってお話するため。そして、みんなと一緒に弁当を食べ、共に学び、友と学びました。年間35回ほど開講される講義の中には、感動して心を震わせる内容があったり、いままでに知らなかった新しい知識や世界を見聞きして視野を広げました。また、楽器演奏を聴いたり、歌を歌うなどの体験授業もあったことでしょう。

生涯大学での活動は学習だけには留まりません。春の学外研修、そして秋には一泊二日の研修旅行もありました。クラスメートや友達と一緒に楽しく社会勉強し、観光も満喫しました。学外研修の間は開放的な気持ちになります。そこでは、様々な経験をもった学生同士が出会い、互いに声を掛け合って交わることで、友達の輪を広げることができたのではないのでしょうか。

生涯大学を語る上で、忘年会は外せません。各組には少なからず役者が揃っています。それらの学生が主導して歌あり、踊りありのいろいろな出し物が出てきます。気に入ったパフォーマンスであれば、舞台におひねりがどんどん投げ込まれます。このように、みんなと一緒に活き活きと大いに笑い楽しむこと、これが生涯大学の学生気質であり、若さの源になっていると確信します。

高坂学園生涯大学の特徴は何と言っても学生による自主運営です。つまり、生涯大学はそこで学ぶ学生自身が、生涯大学の企画・実施に係るすべての業務を担っているということです。たとえば、講師の先生を決めて年間の授業計画を作成します。学外研修や忘年会の企画と準備も行います。これらは各組の代表、役員、班長を始め、他の多くの学生が分担・協力し合って進めており、これこそが創立以来連綿と受け継いできた生涯大学ならではの伝統であるといえます。

本年度は生涯大学にとって大変嬉しいニュースがありました。昨年12月9日には、私たちの高坂学園生涯大学が読売福祉文化賞を受賞するという栄誉に浴しました。

これは生涯大学とその活動が、高齢者の福祉文化の面で全国的に高く評価されたことを示し、非常に誇らしく思っているところでございます。

最後に、修了生のみなさんへ、このような素晴らしい私たちの高坂学園生涯大学を誇りに思い、みんな元気で楽しく、共に学び、友と学んでいくことで、この生涯大学がさらに発展していけるよう祈念申し上げ、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。
